

これからのこと

そして、新たな歩みに向かって

2012(平成24)年、豊島区は、安全・安心なまちの世界基準であるWHO(世界保健機関)協働センターが進める「セーフコミュニティ」の国際認証を取得しました。認証に至るまで、区民の皆様と一体となりさまざまな活動を重ねてきました。このような新たなまちづくりの背景には、いわゆるハコモノを中心とした文化ではなく、参加と協働を強く意識した草の根からの「文化によるまちづくり」が定着し、豊島区の大きな幹に育っていることがある、と言えるのではないのでしょうか。

そして、これからの10年間、豊島区の未来の姿を新たに方向づけるプロジェクトが多数展開されます。

2015(平成27)年春の移転に向けて整備が進められている新庁舎は、質の高い区民サービスの提供、区民の安全・安心を守る防災拠点となるだけでなく、環境に配慮した先進的なシステムを導入していることも大きな特徴です。これまで推進してきた文化創造都市の



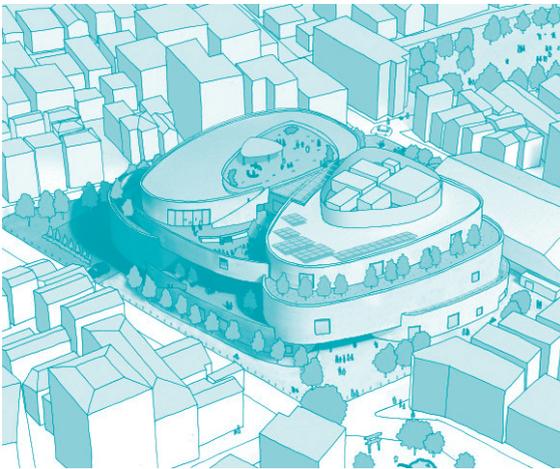
新庁舎の整備

新庁舎が移転する南池袋二丁目A地区市街地再開発建物の建設工事が進んでいる。49階の建物のうち、中・低層部(1階の一部と3階から9階)が区庁舎となり、高層部は住宅となる。新庁舎の整備経費は事業敷地内に所有する旧日出小学校跡地等と、現庁舎跡地の資産活用でまかない、新たな借金はない方針。また、屋上庭園をはじめ太陽光発電や雨水利用の水循環システム、地域冷暖房システムなどを積極的に導入している先進的な環境対策も大きな特徴となっている。2015(平成27)年春移転予定。

シンボルとして、また、まちのランドマークとしての機能も担います。地域における行政サービスや地域コミュニティの拠点となる(仮称)西部地域複合施設には、郷土資料、美術、文学・マンガの3分野で構成する(仮称)芸術文化資料館が開設されます。これまで育んできた「文化の力」を太い幹として、豊島区ならではのさまざまなまちづくりの花が開こうとしているのです。

文化施策はひとつの専門分野においてのみ実施されるものではなく、産業、福祉、教育、まちづくり、環境など幅広い分野と連携し、都市政策全体の中かで総合的に展開されることが求められます。また、行政だけで担当できることは限られているため、区民、民間企業、学校、NPOなど多様な主体との協働により政策を進めることが必要不可欠です。従前より、このことを強く意識しまちづくりを進めてきたところではありますが、今こそこれまでの10年間を振り返り、新たな歩みを決意します。

豊島区オンリーワンの「誰もが誇りに思えるまち」、「訪れたいまち」を築くため、「文化によるまちづくり」の歩みはさらに続いていきます。



(仮称)西部地域複合施設
旧平和小学校跡地に建設される複合施設。区民事務所、保健福祉センター、地域区民ひろば、(仮称)芸術文化資料館、図書館、地域文化創造館などを集約し、西部地域の行政サービス、コミュニティ、文化振興の拠点として機能する。設計は山本理顕設計工場。2015(平成27)年度開設予定。

(仮称)芸術文化資料館は、郷土資料、美術、文学・マンガの3分野にわたる資料収集・保存・調査・研究・展示、教育普及の機能をもつ「ミュージアム」としての役割を担う。図書館、地域文化創造館と連携、融合のもと、単独では生み出すことのできない新しい試みや文化価値の創造を目指す。

新庁舎を設計するにあたって

異なる要素の交わりが生み出す 魅力的な都市空間に「一本の木」をイメージして

建築家 隈研吾

豊島区というコンパクトシティにふさわしい庁舎を計画するにあたって、新しい「豊島区型」のデザインにしたいと考えました。

豊島区は池袋副都心を中心とし、オフィス街、住宅街に併せて商業施設や繁華街、文化の拠点となる劇場や教育施設が高密度に近接しています。これらのゾーンが分割されずに重なり合っているのが豊島区の特徴です。

明確にゾーニングを行い整然とした街並みを作る近代的な都市計画では生み出せない、異なる要素の交わりが生み出すにぎわいや微妙なニュアンスが、魅力ある都市空間を成立させています。

また、グリーン大通りなど緑の資産が点在しており、環境的にも高いポテンシャルを持っています。

このような都市に作る新庁舎を木のようなデザインにしたいと考えました。

木の葉のように建物を覆うエコヴェールと名付けたスクリーンは、太陽光で発電したり、緑やルーバーで日射を遮ったり、いろいろな種類のパネルで出来ており、環境にも人にもやさしい空間を生み出します。また、木の葉のようなパネルは、大きな建物をヒューマンスケールに分解して、街に溶け込ませる働きをします。池袋駅へとつながるグリーン大通りの多様な並木と呼応するデザインとすることで、建築を環境に溶け込ませた新しい都市景観を生み出します。緑を連続させることで、活気ある街並みに憩いや安らぎを加え、これからの「豊島区型」まちづくりを環境共生型へと発展させるきっかけとなります。

エコヴェールと一体となって緑の景観をつくるエコミューゼでは屋上やテラスに豊島の森を再現して、環境を体験・学習します。また、庁舎内部には自然採光と自然換気を可能にするエコヴォイドと名付けた大きな吹き抜けや区民の様々な活動の場となる区民ひろばセンターを設けており、環境に優しく賑わいのある豊島区らしい庁舎となっています。

新しい庁舎は、都市景観や環境にも配慮した豊島区発展の起点であり、点在する緑と緑をつなぐ結節点となる建物です。21世紀の庁舎のあり方に相応しい環境庁舎を建設することで、多様で豊かな「豊島区型」のまちづくりを発展させることができます。新しい庁舎が、ハード面だけでなくソフト面においてもこれからのまちづくりの拠点となることを願っています。
